

保姆としての自覺

總てこれ等の仕事に従ふ人は一方精神上の養護者であると共に、一方身體の養護者でなくてはならぬから、看護のことも一通りは心得て居なくてはならぬ、幼児はまだ新鮮で、無垢のものであるから、それを預るものゝ影響は非常に強いものである。後年の教育よりも寧ろ幼児の保育の方が教

兒童救濟事業と婦人

(フレイベル會十二月例會に於て)

一
世が文明に進むに従つて生存競争がはげしくなり、社會に弱者が多くなり、種々の方面に社會的救濟の必要が起る。蓋し救濟事業といふのは弱者の保護の意味に外ならない。而して弱者といふに

育上には大切なことであるから、保姆は常に精神的に子供によき影響を與へることを務めねばならぬ併して常に修養を怠つてはならぬ。すべての職務をよく行ふにはこれに對する自覺が必要であるが保姆としてもその自覺を有することが必要である眞に自覺せる保姆こそは、又眞にその事業をよく行ふ人である。(文責記者)

法學博士 小河 滋 次 郎

も多くの種類があるが、幼児も亦一般的意味に於て弱者の一つなることはいふ迄もない。生物の中で人間の子供ほど生育に人の助けをかり、人の保護を要するものはない。其の保護を要する期間の長いことは動物の仔の比でないのである。殊に文

明の度が進んで、世が複雑になればなるだけ、此の期間が尙長くなる。昔は十四五才になれば、男女一家をなすなど、比較的簡單であるけれども今日では一人前になるまで保護を要する期間が非常に長い。普通健全なる心身を有するものでさへそうである。況んや貧兒、癆疾兒、低能兒等に於ては殊に多くの保護を要する。社會が其の弱者を救済する必要があるとならば、之等可憐の子供は先づ第一に救済せらるべきものである。言ふまでもなく子供は一家の後繼者、一國の後繼者で、一家一國の盛衰は實に兒童の肩にかゝつて居る。幼兒保護宜しきを得なければ一家一國の前途は憂ふべきことになる。しかも救済事業は其の効果のあるなしにかゝはらず、博愛心から起るもので、たとひ期待する程の効のないものであるとしても、情として之を實行せずには居られない。一體救済事業は何の方面に於てもなか／＼其結果を見ることの困難なものである。即ち養老事業、救療事業、窮

民保護、免囚事業の如きに至つては、いはゞ手なくれの事業で、殆んど思ふ様には効のあらはれないものである。しかし徒勞と知りつゝ之れをなして居るのである。又せずには居られないのである。之れ等に較べれば、同じ救済事業でも、兒童救済は困難なると共に其効果の上に多くの希望を有したる事業であつて、世の中の爲に實効をあげ得るのである。即ち他の救済事業よりも第一にせられなければならない。限りある人と金とにて何の救済を先きにするか、何か最も効のある仕事をしようとならば、即ち第一に兒童保護をなすべきである。現に此の間も静岡の某の特志家が縣廳に金を献じて最も適當なる救済に用ひて貰ひ度いと申し込んだことがある。といふことを縣知事から聞いたから余は之を是非兒童保護の方面に用ひる事を勧めて置いた。

救済事業は世間の流行になり易い。事業の實際の必要、適切な効果の有無を考へてするよりも、

流行につれてするといふ風になり易い。其爲に必要上の前後を誤るようなことも起る。殊に此頃は流行の様に感化院、出獄人保護等のことが諸方に行はるゝ。之等も必要なことには相違ない。出獄者を保護し衣食の道をたてゝやることもいゝことには相違ないが、犯罪者の如き多くは本來の悪人で之を感化して眞の良民にすることは中々六かしい。それよりも先づ吾人の最も同情を與ふべきは寧ろ犯罪者にあらずして其の家族である。彼等は罪なくして盜賊の家族よとそしられて、其日の糊口の道をも失ふて居るのである。世に最も氣の毒なものである。又犯罪者當人の將來の爲にも家庭を救つてやることが有効である。一家離散の犯罪者を改むるには之を迎へるそのホームをよくしてやらなければならぬ。殊に近來宗教家が團結して之等免囚を寺院に引きとり保護する方法をとつて居るが、之は非常に場所を誤りたる事と思ふ。寺院は昔から教育の大切なる機關である。今も子

供の遊び場として尙一種の兒童保護機關の用をなして居ることが多い。即ち寺院は益々兒童の教育的方面に活動せられべきものである。元來此神聖なる幼兒の爲めに用ひられるべき寺院が免囚保護などには力を入れて、兒童保護には何の働きもしないといふのは甚だ事を顛倒せるものである。

二

世の開けるにつれて人口が増加する。我が國も出産數が年々に増加するけれども、死産多きことも亦世界無比である。一年百五十四萬の數にのぼる出産との率が千分の九十四で約一割にあたることになる。全世界中で一番である。獨逸などは六百四十萬即ち千分の四十六の割に過ぎない。其の上我國は死産が多いのみならず、初生兒の死亡率也非常に多い。且つ年々増加する傾向がある。獨逸も多かつたけれども、其方面に注意してから年々減少して居る。そして今では我が國の現在と稍伯仲の間にある。獨逸は年々減少するに、我國は増

加しつゝあるのである。數年を出でずして世界第一となる虞れがある。こんな事で世界一等國は有り難くない。而して死産者や初生兒の死亡率の多いといふことは、一面には生存するものも健康でないことを證明して居ることになる。現に壯丁の健康も死亡率多き地方にては弱く、少き地方のは強いのが事實にあらはれて居る。而して我國では次第に壯丁の健康が衰ふる傾向がある。いつ迄も此まゝならば國家の前途憂ふべき至りである。今日は強兵を以て任じて居るけれども遠からずして貧國弱兵となり一等國の名をとすに至りはずまいか。而してこれ皆兒童保護に注意しなかつた報といふべきである。

三

エンケイは二十世紀は兒童の世紀だといったが、實際此の世紀に於て世界の兒童保護の方面は大に進んだ。而して我國は如何であろうか。外國人からきく所によれば、外人は日本をさして兒童

のバラダイスだと言つて居るそうである。兒童保護をするには日本にならふべし、露國に勝ちたるもこれがためだなど、言つて居るそうである。併し之は飛んだ買ひ被りで、皮相の觀察である。勿論我國の中流以上、上流ではその家の子供を大切にし、その爲めにうきみやつし、いかにも子供に盡して居る。外國で、子供は母親の懷に抱かるゝ事少く、召使からは呼びづてにされ、親の外出にも伴はれないといふ風など、比べると如何にも子供が大切にされて居る様に見える。實際我國の家庭はその家いへの子供の爲によく世話をする風があつたのである。處が今日では上流に於ても此の類が次第に減じて西洋にかぶれ、子供を乳母にまかせたり、母乳を用ゐずに牛乳を用ふるといふ様になつた。

即ち我子の世話を家庭でせず他に托すといふ風が増して來た。我國今日の幼稚園の繁昌も或る意味に於ては之れが因をなして居るとも見られる

然るに今日の時世が要求する幼稚園なるものは純教育的意義よりも救済的意義に於て活動して貰ひ度いのである。然るに斯くの如き有様であつては日本に於ける幼稚園の増加は兒童保護の盛なるを證するのでなくして、上流社會が家庭教育に不熱心なことを證して居るとも言はれる。農民其他眞に保護を加へる必要のあるものは全く其恩恵を與へられず。下層社會の兒童は全く社會から認められて居ない。之れでは子供のバラダイス處ではないのである。

彼の貧しい労働者の子供等はたかゞ身體の不自由なる老人にまかされ、又は全く守る人なく投げやりにせらるて居る。又學齡の幼者でありながら終日工場で働いて居るものあり、行商するものあり、親の仕事を早朝より夕方まで手つだふもあり、尙甚しいのになると、生れると直ちに養育料寧ろ實は埋葬料を附して冷い他人の手に渡されるもある。實際世間には養育料をあてにする惡婦や毒婆

がある。かゝる連中は料金が目的であつて、養育が目的ではない。遂には残酷な結果にして仕舞ふ。新聞でかゝる記事を見ることが往々あるが、それは實際のほんの何分の一が新聞紙上にのぼるのであつて、その何倍も何倍も斯くの如きことが社會の裏面に行はれて居る。しかして我國にては不幸の手に陥る兒童の爲に何等の救済方法も具つて居ないのである。孤兒院養育院の如き方法機關は多少あるけれども、其の内容に至りては甚だ整つて居ない。甚しいのは乞食を養成する場所だか又虐待する等の所だか分らない様なのである。幼兒を寄附金募集の爲の樂隊に出したり、また葬式に出して寄附を受けさせたり、其の内容全く救済の實のないものが多い。又貧兒の爲めに夜學校を建て、やつて居る處などもあるが、其の内容に至つては之亦兒童虐待としか思はれない。嘗て大阪でみたのに、夏期狭き暗きあつき室に多數の兒童を集めて教育して居たが、その三分の一は半睡、半

數は熟睡して居た。その熟睡して居るのは多くは朝早くから夕おそくまで工場で働き、身體は麻の如くにつかれて居るのである。その疲れた眼を以て讀書するのは子供等には無比の苦痛なのである。之れでは親切か虐待か分らない。教育の上に多少でも保護の意味を加ふることを考へるならば、斯かることは出来ない筈である。

斯くの如く我國では保護事業其の當を得ない爲に不良少年は年々増加し犯罪者は八萬人にも及ぶといふ有様である。英國はその數僅一萬四五千に過ぎない。而して我國が斯かゝる状況になつたのは一つに兒童保護の方法を怠つたのが原因である。ビクトルユーゴは兒童救濟の機關が出来れば其の結果として一二ヶ所の監獄を閉づることが出来ると言つたが日本にも眞の兒童救濟事業起らば、犯罪者の減少すること難くない。

四

兒童問題は救濟事業の出發點であつて又中心で

ある。即ち國家の事業とせらるべきものである。ハンガリーやデンマークでは兒童保護の全部を國家が負擔して居る。其他の諸外國も次第にかゝる傾向がある。日本にても漸々其の方向に注意せられて來て益々發展をみるべく、又そうならなければならぬが、併しその眞の發展の爲には先づ何よりも人を待たなければならぬ。經營の任に當る適當の人がなければ仕事の成績はとも擧らない。これ常に苦心する處である。凡て救濟事業にありては原動力となる、最も大切なるものは、慈愛心である。之れなくては何も出来ない。而して婦人は愛の權化である。獨り家庭の守護神となるのみならず、社會救濟事業の擔任者となる自然の自分が自然で居る。殊に兒童の救濟は婦人の手によるが自然である。又一體貧乏の原因は収入の問題よりは支出の問題である。収入を適當に使用することをしないからである。而して支出の下手なるは家庭の家婦の無智によるのであるが所謂貧民の家

婦は多くは支出經濟の法を知らない。貧民救濟の根本は彼等に支出の道を教へてやるにある。而して之れ亦婦人が適任である。即ちいろいろの方面から見ても救濟事業の事實上の中心は婦人の力に待たなければならぬ。

五

救濟事業に婦人が主となるは、事業の上には有益なるのみならず、婦人の天分として其の修養に在るのである。かゝる事業にたづさはりて其の品位を高め精神上得る處あると共に、また身體上の健康を得ることが出来る。教育ある婦人方が卒先してかゝる事業に盡されんことを希望にたへない。そして弱者の守護神、社會の守り神としての模範を示され度いのである。外國では上流の令嬢夫人方が此の方面に献身的に活動さるゝこと大いに感心する次第である。日本にては愛國婦人會、赤十字社、其他救濟事業に係する婦人は多くあるが其爲に自ら手をくだすことを知らない。いつも白

襟紋附主義で、實際手を下して幼者弱者の世話をしたことをきかない。外國に比して甚だ遺憾の事である。

どうぞ良妻賢母といふことを狭き家庭の上のみならず、廣き社會の上にも擴張して、社會の爲に其の幼者等の救濟の任にあたつて頂き度いものである。

終りに一言申さんに、外國にては、婦人が之等の事業の中心となりて、院長幹部となりて働くものが多い。昨年冬ベルリンの講習會に出席した時も講習生の大多數は婦人であつたのには實に敬服した。我國で斯ういふ會合のある時には婦人の影の見たことが滅多にない。先般内務省で催した兒童保護問題の講習の折にも、百五十人中女子僅か四五人に過ぎなかつた。こういふ有様ではないと思ふ。由來救濟事業の原動力は、一金力、二信仰、三慈愛である、即ち一金滿家、二宗教家、三婦人であつて、この三つは救濟事業上の三尊稱

である。協力一致して活動して貰はなければならぬ。而るに吾が國では此三尊いづれも眠つて御座る有様である。どうか此の三尊の一つたる諸君

が此の方面に其活動せらるゝことを希望に堪へないのであります。(講演の概要、文責在編者)

幼 兒 と 迷 信

文學士 寺 田 精 一

幼児の周邊にある人々の態度や言語の忽にすべからざること、今更喋々の必要はない。茲に述べんとする迷信の如きものも、普通の家庭生活に於ては、左程に注意されぬ場合が多いけれども、迷信が色々な關係よりして、幼児の若々しい精神に影響して、永く後來に思はしからぬ結果をまねくことのあるは、一考しなければならぬことである。

幼児の迷信は、其殆んど全部は他より教へられるものであつて、自ら或事實に遭遇して、一つの誤られたる信仰を得るに至るといふことは、殆ん

どないと観てよい、何となれば彼等に於ては、一つの事實を経験すれば、それを其儘一つの経験として取入れて、未だそれに對して思考を回し、其結果一つの信念を得るといふまでには、發達して居ないからである。而して幼児に迷信が教へられる場合には、二つの異つた場合がある、即ち一は教へる人が全く信すべき事實として、迷信を教へる時、二は教へる人は全く迷信たることを知れども、それを聞き入れた幼児は、これを一つの信すべき事實となす時である。教へる人が迷信とは知らないで、幼児にそれを